

終活

## 【5月7日】終活ブームのつぎを本音で考える。日本葬送文化学会シンポジウム開催

2017年05月06日 いい葬儀マガジン編集部

いいね! 14 シェア ツイート LINEで送る



葬儀や火葬、お墓など葬送にかかわる歴史や文化、葬祭ビジネスなどを幅広く研究する日本葬送文化学会（東京都中央区、長江曜子会長）は、2017年5月7日、毎日ホールで創設30周年記念シンポジウム、『終活ブームのつぎを本音で考える』―「終活」後の不安を感じた事がありますか?―を開催します。

### 本当の終活とは何か？

自分らしい最期を考えることで、これからの人生をいきいきとしたものにする。「終活」ブームが訪れてから、6、7年が経とうとしています。

これらの時間の間に、多くの人が終活に取り組んできましたが、その一方で、「自らが自分の死の担い手になること」「生命の大切さを改めて考えること」といった、終活本来の意味から離れて、「単なる葬送の簡略化」ということが終活というようになってしまっているのでは？ともいわれています。

今回のシンポジウムでは、「より良く生き、最期を迎えるために何が必要か」を、「地域とのつながり」「まちづくり」といった視点も交え、関連領域の専門家とジャーナリストたちが議論します。

主催は日本葬送文化学会、協力は聖徳大学生涯学習研究所です。

### シンポジスト&コーディネーター

(日本葬送文化学会HPより)

#### シンポジスト

八木澤村一（やぎさわそういち）

1937年、新潟県に生まれる。東京電機大学名誉教授、日本葬送文化学会顧問。

「火葬場」を建築学分野から研究し、工学博士の学位を取得、「火葬場を中心とする葬祭施設に関する一連の研究」で日本建築学会賞を受賞。

『妙有院・新潟県春町』『京都中央斎場・京都市』『しづかの里・香川県三木町』『さざなみ浄苑・近江八幡市』など、多くの火葬場の建設・設計指導に携わる。共著には『火葬場・大明堂』『葬送文化論・古今書院』『弔う建築・鹿島出版会』『さざなみの譜・近江八幡市』など多数。

### 人気記事ランキング

購読する

- | 月間 | 週間 | 24時間   |
|----|----|--|
| 1  |    | 家族葬の場合はどうする？葬儀後に香典を渡す時のマナー<br>2016年6月25日       |
| 2  |    | 四十九日法要の時間、食事（会食）マナー【法事・法要の基礎知識】<br>2016年7月19日  |
| 3  |    | 【お葬式との違い】お別れの会（偲ぶ会）会費相場とマナー<br>2016年5月13日      |
| 4  |    | 葬儀・葬式にはどんな靴を履いていったらいいの？【女性編】<br>2016年2月26日     |
| 5  |    | 【プロが語る！】平成30年度の介護保険改正で、介護はどう変わる？<br>2016年7月25日 |
| 6  |    | 施主と喪主ってどう違うの？【意外と知らない葬儀の知識】<br>2016年9月5日       |
| 7  |    | 【今さら聞けない！】お通夜と告別式の違いって何！？<br>2016年7月26日        |
| 8  |    | 「平服」ってどんなイメージ？お別れの会に連した服装とは<br>2016年5月12日      |
| 9  |    | いくら用意するべき？一周忌のお布施金額<br>2016年7月27日              |
| 10 |    | 【相場を知りたい】納骨式にお渡しするお布施金額<br>2016年9月22日          |

初めて喪主になる方へ・これだけ読めば安心!!  
**葬儀安心読本プレゼント**

- ・ご葬儀の流れ
- ・葬儀社選びのポイント
- ・葬儀見積りの見方など

葬儀社と会う前に整理しておくとお便利！  
事前チェックシート付き

お申し込みはこちら

仲良しのメンバーで故人を囲む会をやりませんか？

お別れの新しいカタチ「ストーリー」 \*\*\* 詳しく見る

鵜飼秀徳（うかいひでのり）

1974年、京都市右京区の浄土宗寺院に生まれる（1996年、浄土宗教師資格取得）。現在、東京都在住。正覚寺副住職。大学卒業後、新聞記者を経て、日経BP社に中途入社。2012年から経済誌「日経ビジネス」記者に。北方領土問題、東日本大震災後の東北復興、島嶼問題など幅広く取材。

2015年に出版した『寺院消滅—失われる「地方」と「宗教」』（日経BP）はベストセラーに。同年10月、日比谷のフォーリンプレスセンターで記者会見し、英エコノミスト、ガーディアンなど主要紙が大きく報じた。

2016年には最新刊『無葬社会—彷徨う遺体変わる仏教』を上梓。2017年2月、増上寺で養老孟司氏らとシンポジウム「無葬社会」に登壇。「現代社会と宗教」をテーマにして取材、発信を続けている。京都市民景観会議委員。

長江曜子（ながえようこ）

1953年、茨城県に生まれる。3歳まで石の里の笠間市稲田で育ち、3歳より日本最大の墓石卸売業者が集まる都立八柱霊園で育つ。

死にまつわるデス・ケアサービスの葬送アドバイザー（日本初のお墓プランナー）。世界45カ国を旅し、墓石・霊園行政研究、文化人類学的視点で比較研究すると共に、個人のお墓から霊園設計・納骨堂設計等ライフプランニングのアドバイザーとしても活躍している。なお、お墓の研究で学術博士も取得している。タイトルは『人間死後生活空間としての墓地の永続管理に関する研究』。2016年『世界お墓文化紀行』（誠文堂新光社監修）を刊行。

現在、聖徳大学児童学部児童学科教授、日本葬送文化学会会長、聖徳大学生涯学習研究所所長、聖徳大学オープン・アカデミー校長をつとめる。

## コーディネーター

滝野隆浩（たきのたかひろ）

1960年、長崎県佐世保市に生まれる。1982年、防衛大学校を卒業。翌年、毎日新聞社に入社。甲府支局、社会部、「サンデー毎日」編集部、夕刊編集部、前橋支局長などをへて現在、社会部編集委員。毎日新聞朝刊で「身じまい練習帳」を連載（隔週）中。著書に「宮崎勤精神鑑定書」「自衛隊指揮官」（ともに講談社）、「自衛隊と東日本大震災」「沈黙の自衛隊」（ポプラ社）、「自衛隊のリアル」（河出書房新社）など。

## 日時と会場

日時： 2017年5月7日（日） 13:30~16:00（13:00受付開始）

会場： 毎日ホール 東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビル 毎日新聞東京本社地下1階

お問い合わせ先： 050-3557-1155（30周年シンポジウム専用） 休日中も対応いたします。

来場者には、日本葬送文化学会オリジナルエンディングノートのお土産もあるそうですが、反響も大きいため参加には予約が必要となります。詳しくは、日本葬送文化学会のホームページをご確認ください。

### 日本葬送文化学会30周年シンポジウムのご案内 | 日本葬送文化学会

日本葬送文化学会30周年シンポジウムを開催いたします。公開シンポジウムです。参加費無料・申込不要です。（定員180名）反響が大きいため要予約になりました。（2017年4月17日）【申込方法】下記の宛先までEm...

 [www.sosobunka.com](http://www.sosobunka.com)

